



体育館棟

小松高等学校は、小松市都心部の歴史、文教ゾーンに立地する伝統校である。小松基地の航空機騒音に対処するため防音化を図る必要があることなどにより、全面改築を行った。



廊下



講義室

地域に開かれた庭園 : 隣接した芦城公園のイメージを前庭に取り入れて、連続性を持たせている。さらに敷地中央のふれあい広場を通して、「青雲の小径」、天守閣までの連なる散策路として計画し、地域に開かれた親しみのある庭園とした

生徒の交流・学校開放 : 校舎棟の中央に図書館、多目的講義室、視聴覚室兼集会室などを一校舎に集約し、生徒の交流による人間形成や学校開放に対処できる生活学習センター棟を創出した。

ゆとりある計画 : 各棟をつなぐ主たる幹線廊下を広くゆとりある計画とし、所々に生徒の憩いの場となるコモンスペースを設けている。

開放的空間 : 特別教室棟のギャラリーは3層吹き抜けとし、明るく開放的な空間とした。










エントランスホール

- 景観や雰囲気の調和 : 閑静な低層住宅地や自然の多い芦城公園、博物館や美術館などの文教施設に囲まれた立地条件であり、これらの景観や雰囲気と調和のとれている外観を心がけている。
- おおらかさをイメージ : 周辺環境と違和感なく品格のある建物とするために様々な階層の建物にして表情を持たせ、おおらかさをイメージしたやさしい曲線の屋根や落ち着いて暖かみのあるタイルを外壁に取り入れている。
- 自然に溶け込む : 建物全体が周辺の緑に囲まれて自然に溶け込み、今後この地に長年にわたって根付いていくことを想定したデザインとしている。

学校運営をしながらの改築工事:

限られた敷地内で随時解体と新築工事を繰り返す計画とし、校舎の取り壊し順序や各工期における駐車場・車両進入路・生徒動線・校舎間仮設通路の検討を行い、仮設・安全計画の確保を行った。

-  : 既存樹木をできるかぎり保存し、構内緑化に努めた
-  : 外部に透水性舗装材を用いている
-  : 体育館棟地下に雨水貯留槽（94t）を設置し、雨水を便所洗浄水として中水利用を行っている
-  : 校舎屋上に太陽光発電設備（10kW）を設置
-  : 外壁・床タイル、インターロッキング、カーテン
-  : 家具、内装材、サインに県産材を使用
-  : 身障者用エレベーターや多目的便所の設置、広めの通路・スロープの設置、各教室の段差をなくすなどバリアフリーに考慮

DATA

小松市丸内町二ノ丸地内 平成12年9月～平成17年10月 14,226㎡
講堂 RC造：3F 2,449㎡
特別教室棟 RC造：3F 3,369㎡
管理教室棟 RC造：4F 5,501㎡
生活学習センター RC造：3F 2,905㎡